

取組名	圧造工程の生産実績の見える化と業務改善及び設備保全へのデータ活用		
企業名	株式会社アンスコ（瀬戸市）		
業 種	ボルト・ナット・リベット・小ねじ・木ねじ等製造業	従業員数	40名

使用デジタルツール
ユニケージ開発手法 〔(有)ユニバーサル・シェル・プログラミング研究所〕

課題・背景

圧造工程において機械ごとの生産実績が翌日の午後にならないと把握できない。
日報に記載する項目である使用材料名、チャージNo.、生産本数、材料使用量などの集計、入力に時間がかかっているからである。この作業に多くの時間を割いていることで、本来の生産、工程内検査の時間が削られ、作業活動の長時間化、生産性向上の膠着状態に繋がっている。



取組内容

日報、生産実績集計に必要なデータを自動的に収集しデジタルリスト化することで集計時間の短縮、正確性向上を図った。
材料情報は入荷時に情報をデジタルリストにインプットし、使用時に製品情報リストにデータを関連付けする。これによりこれまで生産後に確認していた情報が生産実績、材料重量以外は生産スタート時に全て揃っていることになる。

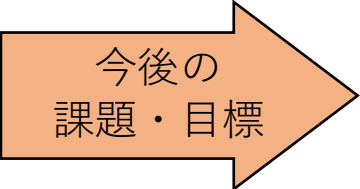
圧造機には生産本数をリアルタイムに検出できるよう制御盤のカウンターからデータを拾い、WiFiによりPCに送信。カウンターデータから随時生産本数を把握し、事前に設定している単重×生産本数で材料の使用重量を割り出す。これにより生産終了時に使用した材料重量、材料残重量が把握、記録される。



結果・効果

この仕組みにより、生産終了と同時に日報記載情報がすべて揃い、取り纏め作業の簡略化が期待できる。また、材料のリスト化により在庫状況の把握も容易になると思われる。

直接的な生産活動の周辺にある作業を正確かつ簡略化することが出来れば、限られた時間を生産に充てることが出来る。また、随時進捗の確認が出来ることで翌日以降の生産計画の実効性の確認も出来るものと思われる。



- ①今回のサンプル機での運用を確実にし、操作・手順をマスターしたうえでデータ活用の方向性を確定する（日報作成への転換、稼働状況の見える化など）※～3月末。②係内でのトレーニングにより運用法を習熟する※～4月末。③サンプル機以外の圧造機に同様の仕組みを設置。全台での運用を開始する～6月末。④後工程（ロリングなど）への応用の研究、調査。（課題）最終ゴールと位置付けている生産計画立案自動化への発展の研究